

永原学園地域子育て支援センター
さんこう・ぽぽらだよ!
令和8年10月発行 第233号
認定こども園西九州大学附属 三光保育園
TEL:0952-31-6877

10月と11月の「子育て支援事業」のお知らせ

時間:10時から12時まで

- ・10月7日(水)…東与賀よかよかサークル
(東与賀保健センター2階)
- ・10月8日(木)…芋ほり体験***先着5組**
- ・10月13日(火)…環境&癒し講座***先着5組**
- ・10月16日(金)…分園で遊ぼう***先着5組**
- ・10月19日(月)…分園で遊ぼう***先着5組**
- ・10月21日(水)…高木瀬赤ちゃんサロン(高木瀬公民館)
- ・10月26日(月)28日(水)…赤ちゃんの日***先着5組**
「足形キーホルダー」

駐車場:三光保育園分園 PINO

11月から子育て支援「さんこう・ぽぽら」は三光保育園本園のセンターに戻ります。(佐賀市若宮1丁目13-17)

- ・11月4日(水)…2・3歳の日
- ・11月6日(金)…1歳の日
- ・11月10日(火)12日(木)…赤ちゃんの日***先着8組**
- ・11月16日(月)…高木瀬あいあいサークル(高木瀬公民館)
- ・11月20日(金)25日(水)26日(木)…フリーディ

駐車場:三光保育園本園駐車場

申し込み方法:「さんこう・ぽぽら」HP、毎月1日10時から

※赤ちゃんの日は兄弟児の参加はご遠慮下さい。



「自然体験:芋ほり」に行きます!

日時:10月8日(木)10:00~12:00 (先着5組)

※市報掲載と異なります。

今年は猛暑で生育状況が悪く、さつまいもの収穫量が少ないため、自然体験の日程と参加人数が変更になりました。持ち物に関しては「さんこう・ぽぽら」HPに詳しく載せています。(金立公民館に10時集合です。)

*申し込み方法:10/1(木)

「さんこう・ぽぽら」HP10時から



「背中をなでる効果」

「保育界9月号」にヒトが乳幼児の背中をなでると落ち着くという行為が経験則からではなく、科学的に裏付けされた支援方法であると掲載されていました。保育の現場においては、午睡前の背中なでや泣いた際によしよしと背中をなでて落ち着かせる光景をよく見かけます。小さい子ほど、日常的な世話をする保育者や関わる人に撫でられると、だんだんと安心して落ち着いてきます。この研究の中では、背中をなでる刺激が「落ち着きをもたらす仕組み」であり、生後早期の養育者とのふれあい経験によって育まれることが示されているそうです。触覚過敏のあるお子様や不安の強いお子様は落ち着きを得るための刺激を経験する機会が不足している可能性があるとも書かれていました。赤ちゃんの時から泣いた時、不安な時、抱っこして背中を撫でてあげましょう。

(三光保育園園長)



♪育児相談・食育相談をしています♪

三光保育園及び三光幼稚園では、育児・食育相談を受け付けています。お気軽にお申し込み下さい。

※西九州大学短期大学部教員による、食育相談も行っています。事前にお電話でお申し込みの上、ご利用下さい。

(受付時間:平日の9:30~17:00まで)

さんこう・ぽぽら(園庭を含む)の開放時間帯について

***10月までは三光保育園分園 PINO、**

11月からは三光保育園本園になります。

【開園日】◎月~金(祝祭日・お盆・年末年始を除く)

【時間】◎9:00~12:30、13:30~16:00

※12:30~13:30 昼休み・準備の為閉園

【お知らせ】

※園行事の為、ご利用できない場合があります。

※出前支援の日は、担当職員が不在になります。

※サロンの日以外に遊びに来る場合は電話でお問い合わせください。

Tel:97-5151(三光保育園分園 PINO)

Tel:31-6877(三光保育園本園)

「シニアサロンぽぽら」

子育て支援センター「さんこうぽぽら」では、月に1回地域の方にお越し頂き楽しいひと時を過ごしています。

お茶とお菓子を頂きながら、おしゃべりや物づくりを楽しみませんか?

日時:10月30日(金)花の苗植え

11月30日(月)お店屋さんごっこ

子育て便り

「外での運動遊びが育む、子どもの心・社会性・生活リズム」

スポーツ健康福祉学科 教授 山田力也

子どもが外で遊ぶ「時間」「空間」「仲間」が減っているといわれます。それでも、体を動かす楽しさは身近な場所にあります。水たまりを跳び越える、公園の坂を駆け上がる、友達と追いかけっこをする。自然の中で体を動かす遊びは、体力だけでなく、心や人と関わる力、生活リズムにもつながっています。

例えば、でこぼこ道を歩く、少し急な坂を登る、石を踏まないように跳んで進む。子どもは体を動かしながら「どうすれば渡れるかな」「次はここに足を置こう」と考え、小さな「できた」を重ねます。うまくいかなくても、やり方を変えてもう一度試す。その繰り返しで、自分を信じる気持ちや新しいことに挑戦する意欲を育みます。文部科学省の調査でも、子どもの頃の自然体験の豊かさと、その後の自尊感情との関連が報告されています。

友達と一緒に体を動かすときには、別の学びも生まれます。追いかけて「ここから先は安全地帯にしよう」と相談する。ボールを転がす遊びで「次は誰の番？」と声をかける。思いがすれ違ったときには、相手の話を聞いて遊び方を考え直すこともあります。転んだ友達を気遣ったり、一緒にゴールした友達と喜び合ったりする経験も、コミュニケーション力や思いやりを育む機会になります。文部科学省の「幼児期運動指針」も、体を動かす遊びと意欲や社会性とのつながりを示しています。

外で元気に遊ぶことは、眠りを支える生活リズムにも関わります。朝や日中に自然光を浴びることは、体内時計を整える助けになります。昼間は歩いたり走ったりして遊び、夜は部屋の明かりを落として休む。そんな一日のメリハリをつくることも、子どもの健やかな成長を支えます。

子どもにもっと体を動かしてほしいとき、「外で遊んでおいで」と声をかけるだけでなく、身近な大人自身の姿も一つのきっかけになります。笹川スポーツ財団の調査では、幼児が園以外で体を動かす時間は、親の運動習慣や親子で一緒に体を動かす頻度と関連していました。散歩を楽しむ、階段を使う、ときには公園で一緒に走ってみる。親が楽しそうに体を動かす姿から、子どもも「やってみたい」と感じるかもしれません。まずは大人も、無理なく体を動かすことを楽しんでみませんか。

【参考文献】

- ・文部科学省（2020）：青少年の体験活動の推進に関する調査研究 報告書
- ・文部科学省（2012）：幼児期運動指針
- ・厚生労働省（2023）：健康づくりのための睡眠ガイド
- ・笹川スポーツ財団（2024）：幼児の運動習慣、“公園の多さ”より“親子のふれあい”“親のつながり”がカギ